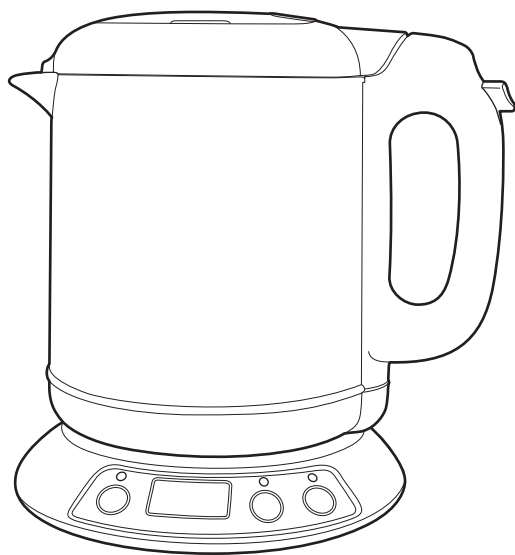


電気ケトル DEK-1301

取扱説明書・保証書

このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあと、もいつでも見られるように大切に保存してください。



も く じ	
安全上のご注意	P1 ～ P2
各部の名称とはたらき	P3
正しい使いかた	P4 ～ P7
お手入れと保存	P8 ～ P10
修理・サービスを依頼する前に	P10
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙

仕 様

型 名	DEK-1301
電 源	AC100V 50/60Hz
定格消費電力	1100W
定格容量	0.2 ～ 0.8L (リットル)
電源コード長さ	約 0.75 m
外形寸法	約 幅 250 × 奥行き 190 × 高さ 240mm (電源ベース含む)
質 量	約 1.4kg (電源ベース含む)

● 仕様等は改善・改良のため、予告なく変更することがあります。
● この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

安全上のご注意

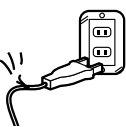
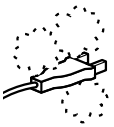
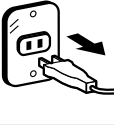
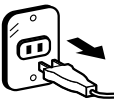
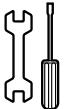
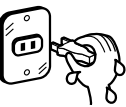
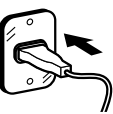
- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。)

図記号の意味と例

	⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

警告

 禁止	 交流 100 V以外では使用しない。 火災・感電の原因になります。	 指示	 定格 15A 以上のコンセントを単独で使う。 他の器具と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。
	 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものを乗せたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。		 電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合はふきとる。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。
	 電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。	 プラグを抜く	 使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。 絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。
	 子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使わない。 けが・感電の原因になります。		 お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になることがあります。
 使用禁止	 ケトル本体や電源ベース部のすき間にピンや針金などの金属物等、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。	 分解禁止	 分解しない。また、修理技術者以外の人 は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理 は販売店またはドゥシヤサービスセンタ (裏表紙参照) にご相談ください。
	 異常時(こげ臭い、発煙など)は電源プラグを抜き、使用を停止する。 火災・感電の原因になります。	 ぬれ手禁止	 ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。
	 指示	 電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。	 水ぬれ禁止

警告

 ケトル本体を直接火にかけない。 火災の原因になります。 禁止	 カーテンなどの可燃物の近くで使わない。 火災の原因になります。 禁止
---	--

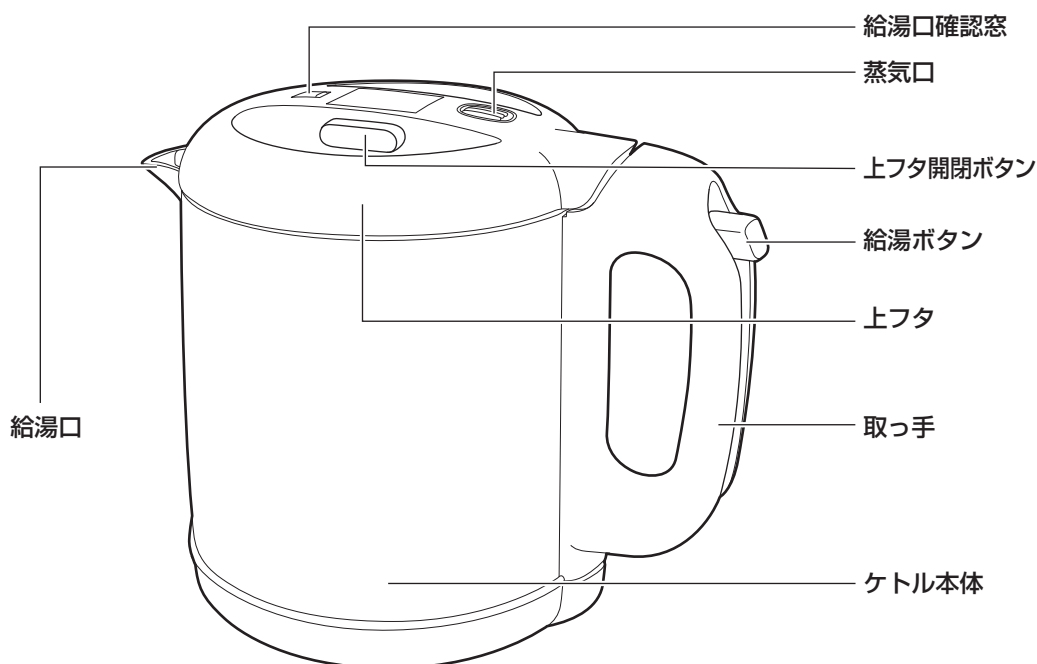
注意

 指示	電源プラグを抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグをもって引き抜く。 感電・ショート・電源コードの断線の原因になることがあります。 お手入れや持ち運び、保存は、ケトル本体が冷めてから行なう。 火災・やけどの原因になることがあります。	 禁止 沸騰後は給湯口側以外にケトル本体を傾けたり、ゆすったりしない。 湯が流れ出て、やけどの原因になります。 不安定な場所や熱に弱い敷物の上で使わない。 けが・火災の原因になることがあります。
 禁止	壁や家具の近くで使わない。 蒸気や熱で壁や家具が変形・変色したり、火災の原因になることがあります。 空だきしない。 火災の原因になることがあります。 使用中にケトル本体を回さない。 湯が飛び散り、やけどの原因になることがあります。 ケトル本体を持ち運ぶときは、上フタを持たない。 上フタが開き、やけどの原因になります。 水以外の物（お茶の葉、コーヒー、スープ、レトルト食品など）を入れない。 ふきだしたり、焦げつき・腐食の原因になることがあります。 満水表示「MAX 0.8L」以上に水を入れない。 ふきこぼれ・やけどの原因になります。 給湯口、蒸気口をふきんなどでふさがない。 ふきこぼれ・やけどの原因になります。	 接触禁止 熱源の近くで使用しない。 火災・故障の原因になります。 沸騰した後、すぐにお湯を注がない。 湯が飛び散り、やけどの原因になることがあります。 上フタを開けるときの出る蒸気に触れない。 やけどの原因になります。 使用中や使用後しばらくは、高温部に触れない。 やけどの原因になります。 氷を入れて保冷用に使わない。 結露が生じ、感電・故障の原因になります。 ケトル本体を転倒させない。 やけど・けがの原因になることがあります。 沸騰直後は上フタを開けない。 ふきこぼれ・やけどの原因になります。

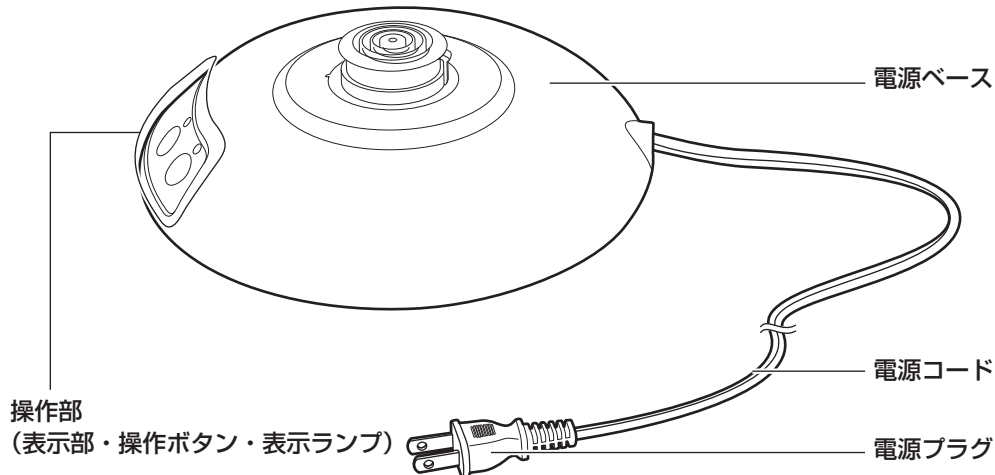
各部の名称とはたらき

- 本製品はケトル本体と電源ベースの分離式になっております。
- 空だきすると、安全装置が作動します。
- 本製品には保温機能はありません。湯沸かし専用です。

ケトル本体



電源ベース



ケトル本体には必ず付属の電源ベースをご使用ください。



警告

付属以外の電源ベースを使用しない。
火災や故障の原因になります。

梱包部品一覧

お買い上げ後、同梱の部品を確認してください。

ケトル本体	1 個	取扱説明書（保証書含む）	1 部
電源ベース	1 個		

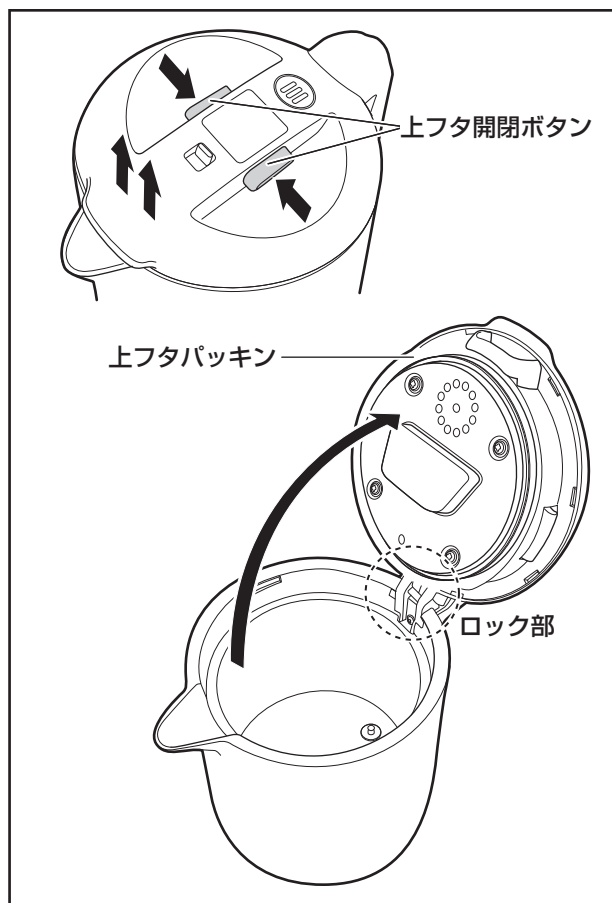
正しい使いかた

使用前の準備

1. 電源ベースを安定した水平な場所に設置する

2. 上フタ開閉ボタンを2つ同時に押し、上フタを開いて水を入れる

- 上フタ開閉ボタンを2つ同時に押し込むと、ロックがはずれて開くことができるようになりますので、そのまま上フタを開いてください。
- 上フタは、取っ手側まで倒してロックがかかる所まで開いてください。



注意 ロックされていないと上フタが急に閉まり、指などをはさむ場合があります。

- 水の量は、内側に刻印されている水位目盛りで確認してください。
- 初めてご使用になるときはケトル本体の内部を水洗いしてご使用ください。
また水位目盛り 0.8L で 1 度沸かして、そのお湯はすててから、ご使用を開始することをおすすめします。



- 電源ベース及びケトル本体の底面を水に濡らさないようにしてください。
- 水を最大水位 0.8L を越えて入れないでください。
熱湯が吹き出る恐れがあります。
- 0.2L 以上 0.8L 以下の水を入れてください。
- 水以外の物（お茶の葉、コーヒー、スープ、レトルト食品など）を入れたり、空だきしないでください。

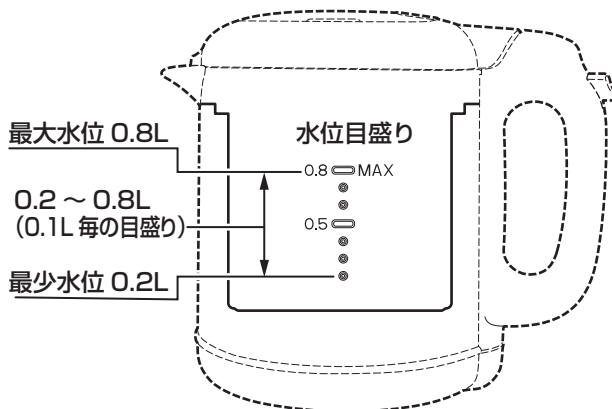
3. 上フタを閉め、電源ベースの上に設置する



注意 上フタが正しく閉まっていることを確認してください。

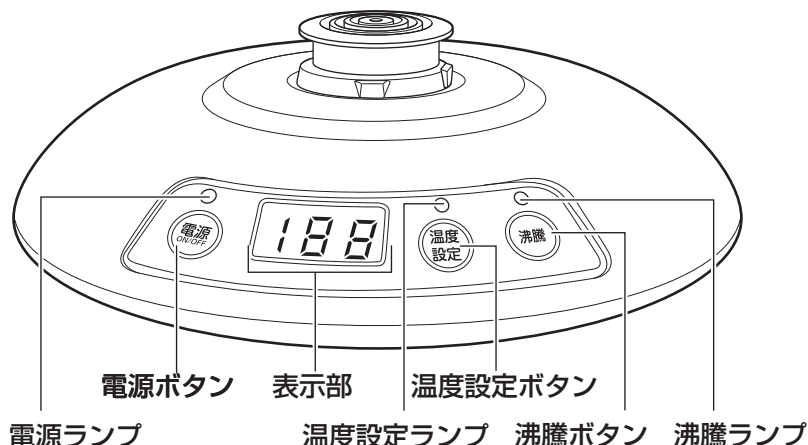
※ 再沸騰するときケトル本体を電源ベースの上に設置すると音が鳴ります。

4. 電源プラグをコンセントに差し込む



正しい使いかた（つづき）

操作部



お湯を沸かす／再沸騰させる

1. 電源ボタンを押す

- ・上フタがしっかり閉まっていることを確認します。
- ・ 電源ボタンを押すと同時に操作音が生じ、電源ボタンの上にある、電源ランプ（赤色）が点灯します。

2. 沸騰ボタンを押す

- ・ 沸騰ボタンを押すと、ボタンの上にある沸騰ランプ（緑色）が点滅し、表示部に「100」を表示、3秒後に湯沸し（加熱）を開始します。
- ・沸騰するまでの時間は、水量や水温、室温などによって変化します。

3. 水が沸騰すると、お知らせ音が5回鳴る（沸騰ランプが点灯）

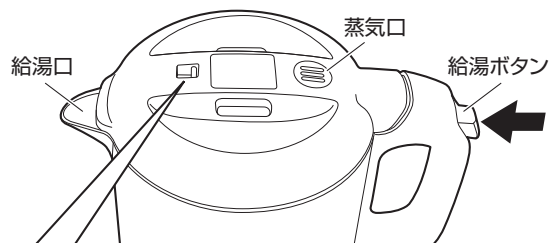
 **警告** 蒸気口からの蒸気に注意してください。

4. 給湯ボタンを押してお湯を注ぐ

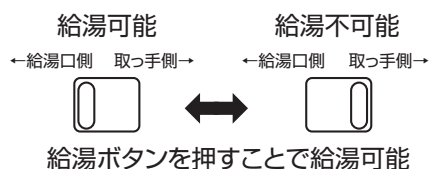
- ・ケトル本体を電源ベースからはずします。
- ・給湯ボタンを押しながら、給湯口確認窓を給湯口側にして、ゆっくりとお湯を注いでください。

5. 電源プラグをコンセントから抜く

 **警告** 使用後は電源プラグをコンセントから抜く。火災や故障の原因になります。



「給湯口確認窓」の状態



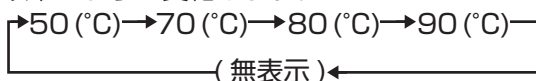
温度を設定してお湯を沸かす／お湯を設定した温度にする

1. 電源ボタンを押す

- ・上フタがしっかり閉まっていることを確認します。
- ・電源ボタンを押すと同時に操作音がして、電源ボタンの上にある、電源ランプ（赤色）が点灯します。

2. 温度設定ボタンを押して、温度の設定をする（4段階設定）

- ・温度設定ボタンを押すと、ボタンの上にある温度設定ランプ（オレンジ色）が点滅し、表示部に「50」と表示されます。
- ・温度設定ボタンを押すたびに設定温度が以下のように変化します。



- ・無表示にすると温度設定ランプ（オレンジ色）が消灯し、電源ランプ（赤色）のみ点灯した状態に戻ります。
- ・ボタンを押し終えてから3秒後に湯沸しを開始します。
- ・ボタンを押し終えて3秒以内なら温度設定を変更することができます。
- ・ボタンを押し終えて3秒以上経過して温度設定を変えたいときは、電源ボタンを押して電源を入れなおしてから設定してください。
- ・設定温度ボタンを押し、湯沸かし開始直後にお知らせ音が鳴る場合は設定温度より高い水温のお湯が入っていますので、中のお湯を捨てて再度手順1からやり直してください。

3. 水が設定温度になると、お知らせ音が5回鳴る（温度設定ランプが点灯）

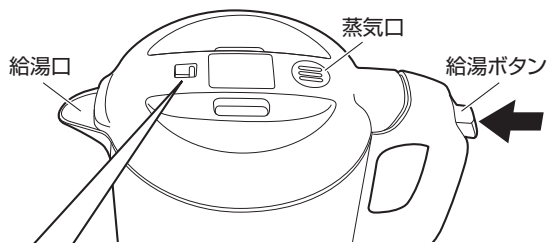


警告

蒸気口からの蒸気に注意してください。

4. 給湯ボタンを押してお湯を注ぐ

- ・ケトル本体を電源ベースからはずします。
- ・給湯ボタンを押しながら、給湯口確認窓を給湯口側にして、ゆっくりとお湯を注いでください。



「給湯口確認窓」の状態

給湯可能

給湯不可能

← 給湯口側 取っ手側 →

← 給湯口側 取っ手側 →



給湯ボタンを押すことで給湯可能

正しい使いかた（つづき）

5. 電源プラグをコンセントから抜く

 警告	• 使用後は電源プラグをコンセントから抜く。 火災や故障の原因になります。 • 湯を沸かしている時は、フタをあけたり、蒸気口に手や体を近づけたりしない。 やけどの原因になります。
 注意	• 空だきしない。 空だき防止の安全装置を搭載していますが、空だきを何度もするとステンレスの内部が変色してしまいます。 • ケトルを電源ベースから取りはずす前に電源が切れていることを確認する。 • 電源ベースにケトル本体を設置した状態で上フタを開けない。 ふきこぼれ、やけどや転倒してお湯などがこぼれる原因となります。

お手入れと保存



警告

お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、ケトル本体が冷めたことを確認する。
感電やけが、やけどの原因になります。

日常のお手入れ

- ・残った水は上フタを開けて捨ててください。
- ・上フタおよび取っ手などに残った水はよくふきとってから乾かしてください。

お願い

- ・住宅用洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉などは絶対に使わないでください。
- ・ケトル本体に水をかけて洗わないでください。(感電・故障の原因になります。)

ケトル本体外側・電源ベース

ぬるま湯か台所用洗剤に浸してかたくしぼった柔らかい布でふきとり、さらに乾いた布でやさしくからぶきをしてください。(ケトル本体外側、電源ベース部分は強くこすらないでください。傷つきの原因となることがあります。また、電源ベースを水にぬらさないでください。感電・故障の原因になります。)

ケトル本体内側

台所用洗剤を入れた水またはぬるま湯で洗った後、水でよくすすいでください。

ケトル本体内側の汚れは、水に含まれるミネラル成分の作用によるもので衛生上問題ありません。

汚れが落ちにくい場合

クエン酸を使用してお手入れしてください。

- ① 水を 0.8L (MAX) まで入れ、その中にクエン酸 (50g 程度) を入れてかき混ぜます。
- ② 上フタを閉めて沸騰させます。
- ③ 約 1 時間放置します。
- ④ お湯を捨て、水で十分にすすぎます。
(クエン酸のにおいが気になる場合は、水を入れた後に、沸騰させてからお湯を捨ててください。)

お手入れと保存（つづき）

上フタパッキンの交換

上フタパッキンは1年を目安に確認し、

- ・表面のザラつきや損傷のある場合
- ・フタのすき間から蒸気がもれ出る場合

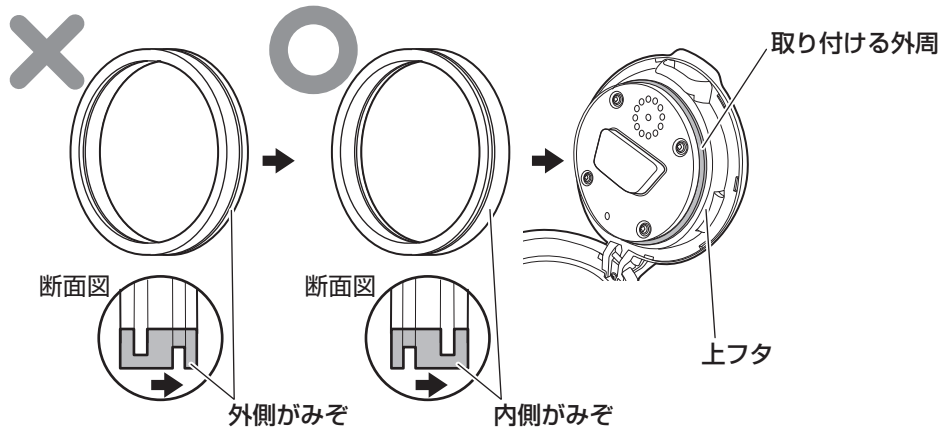
交換部品をお求めになり、交換してください。

上フタパッキンの取りはずし

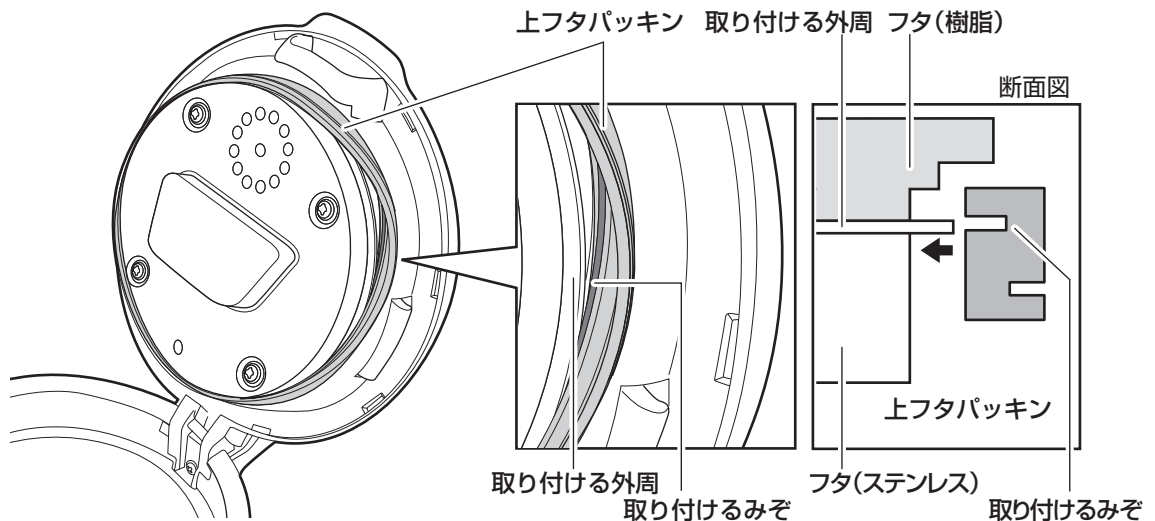
上フタを取っ手側のロックがかかるところまで開き、上フタの外周にはめ込んである上フタパッキンを取りはずします。

上フタパッキンの取り付け

新しい上フタパッキンを取り付ける方向を確認します。



取り付ける方向を確認したら、上フタの取り付ける外周に上フタパッキンの「みぞ」を合わせて、上フタ一周、しっかりとめ込んでください。



確認

取り付けが終わったら、すき間がないか、上フタの外周ですれていないところはないか、ちゃんと上フタが閉まるか、確認してください。上フタパッキンを交換しても蒸気がもれたりする場合、もう一度上記をよくお読みになって取り付けなおしてみてください。

上フタパッキン

部品番号：DEK-1301P

お買い上げの販売店、またはドウシシャサービスセンターでお買い求めください。



注意

上フタパッキンをはずしたまま使用しないやけど、けが、故障の原因になります。

プラスチックのにおいについて

一般的にプラスチックが熱で温められるとプラスチック特有のにおいがする場合があります。

保存のしかた

- お手入れのあと、よく乾燥させてください。
- ポリ袋などをかぶせ、お買い上げの商品が入っていた箱に入れて、湿気のない場所に保存してください。

修理・サービスを依頼する前に

⚠警告	修理技術者以外の人 は 分解したり修理をしない。	
「故障かな？」と思ったときには次の点をお調べください。		
症状	主な原因	処置
温まらない(電源が入らない)	・ 電源プラグが抜けている	電源プラグをコンセントに差し込んでください
	・ ケトル本体が電源ベースにはまっていない	ケトル本体を電源ベースにしっかりはめ込んでください
	・ 水がなくなり空だきの状態になって、安全装置が作動している	水を入れてケトル本体を冷ましてください
沸騰中にお湯が漏れ出る	・ 水が 0.8L を超えて入れている	最大水位である 0.8L より多く水を入れると、沸騰したときに溢れ、漏れ出てしまいます。水は 0.8L 以下にしてください。
	・ 上フタパッキンがきっちりとはめ込まれていない	みぞに合わせてきっちりとはめ込んでください。
沸かしたお湯の温度が下がっている	・ 沸騰してお知らせ音が鳴ったあと時間が経っている	本機には保温機能はありませんので、お湯を沸かしたあとは、温度が下がります。再度沸かしてください。
お湯が出ない	・ 水が入っていない（空だき）	水を入れて沸かしてください

長年ご使用の電気ケトルはよく点検を

このような症状はありませんか？

- ・ 電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ・ 電源コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- ・ こげ臭い匂いがする。
- ・ その他の異常・故障がある。

このような症状のときは、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシシャサービスセンターに点検をご相談ください。